

**SSKP** 認定NPO法人  
難病のことも支援全国ネットワーク

vol.143

平成26年3月1日(年6回発行)

# がんばれ!

〒113-0033 東京都文京区本郷1-15-4 文京尚学ビル  
Tel.03-5840-5972 Fax.03-5840-5974 電話相談室 03-5840-5973  
ganbare@nanbyonet.or.jp



みんなのふるさと“夢”プロジェクト  
新名称「あおぞら共和国」完成イメージ



特集

## あおぞら共和国

(みんなのふるさと“夢”プロジェクト)新名称決定 ②

あおぞら共和国 ⑨

事務局からのお知らせとご報告 ⑬

はい、ネットワーク電話相談室です。⑱

<がんばれ!>は財団法人日本児童教育振興財団からの助成を受けています。



<http://www.nanbyonet.or.jp>

Twitter マフォローしてください!

<http://twitter.com/nanbyonet>

特集

# 「あおぞら共和国

## (みんなのふるさと“夢”プロジェクト)」新名称決定



2011年7月に仁志田博司さんを実行委員長に迎え「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」がスタートして3年、この間、開発の申請、地元説明会、開発工事、井戸の掘削など進める一方、各地でのチャリティ講演会、チャリティ・ウォークなど一連の広報活動を展開して、2013年には一つ目のロッジに着工、いよいよ3月29日、その第1号ロッジが竣工し、4月には日本テレビ24時間テレビから太陽光発電システムの寄贈を受けることになりました。

今はまだ3,000坪の広い土地に小さなロッジがポツンとありますが、この春には第2号ロッジ建設に着手する予定です。ここまで来るまでには、本当に大勢の皆様のご支援があつたことと心から感謝いたしております。

さて、これまで「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」として企画を進めてきました。第1号のロッジは5月から利用開始できるように準備を進めているところですが、それに伴い、この施設全体の名称を決定させていただきました。

名称は昨年12月までに会員や関係者から名称募集をしたところ、76件(重複含む)の応募があり、このうち新名称候補を10件に絞り、正会員の皆様に投票していただいた結果、新名称は

# “あおぞら共和国”

に決定しました。

山梨県北杜市は日照時間日本一とされており、また現地では真っ青な素晴らしい青空を望めます。カラー写真でお見せすることが出来ずに残念です。是非、白州の現地までお運びいただいて素晴らしい「あおぞら」を実感してください。そして、“あおぞら共和国”を皆さんの手で育てていって下さい。

新名称として“あおぞら共和国”と決定しましたが、プロジェクト自体は続いています。「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」は、広報に関するイベント等ではこれまで同様使用して行く積りです。

今回の<がんばれ!>143号では、仁志田実行委員長、設計を担当した土屋正一さん、建築の棟梁である青柳大樹さん、開発を担当した小口博さん、太陽光発電システムと施設運用を担当した畑秀二さんから寄稿して頂きました。

今回の設計思想や地元で長く守られてきている建築様式、開発に係る様々な苦労話や太陽光など再生エネルギーに関連するシステムなどを紹介しています。

これらの考え方や技術に関するご質問があれば事務局までお寄せ下さい。



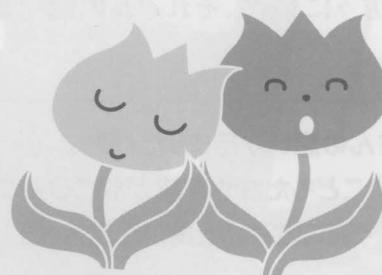
# 夢が現実になりました!



みんなのふるさと“夢”プロジェクト 実行委員長  
仁志田 博司

みなさん夢をみますか? と言っても眠っている時にみる夢ではなく、おき(覚醒)している時にみる夢のことです。それは空想や異次元の世界への夢であっても、願いや祈りがその中の核に在ります。その夢の漠然とした核が、ある形を取るのは多分100分の一でしょう。その漠然とした形が、目に見えるような計画になるのは、またその100分の一でしょう、さらにその計画が実行に移るようになるのは、またその100分の一でしょう。ということは、夢が現実となるのは、100万分の一程度なのです。でも、考えてみてください。たとえ100万分の一でも、夢を見なかったらそれは零なのです。

白州プロジェクトのスタート時の合言葉は、「夢を見よう、そしてその夢を形に、形を計画に、計画を現実に」でした。偶々実行委員長になった私が、「何も無くとも夢がある、夢を見よう」、と会うたびに言っていた、と小林会長がどこかに書いていました。そうです、すべては夢をみることから始まりました。



もう夢の段階を過ぎましたので、「白州夢プロジェクト」は新しい名前に変わらなければなりません。どんな名前になるか楽しみです。でもどんな名前になっても、私たちはいつも希望の夢がその中に染み込んでいることを忘れません。子どもが天才なのは、いつも夢を追っているからです。私達も、子どもの心を持ち続けて、次の夢を探しましょう!





# 全体計画の コンセプト



一級建築士 土屋 正一

2011年7月の「みんなのふるさと夢プロジェクト」発足以来、夢プロ実行委員会、チャリティーウォークの参加者、チャリティー講演会などを通じてたくさんの支援してくださる方々によって、それぞれの「夢」が熱く語られてきました。

たくさんの想いが詰まった「夢」。

難病の子どもたちや家族がなにひとつ煩わされることなく過ごす事の出来る「ふるさと」の「夢」。

語られたたくさんの「夢」を、この白州の地で「子どもたちのふるさと」として、たとえ長い時間がかかったとしても、どのように作り上げていくのか、これもまた楽しい「夢」です。

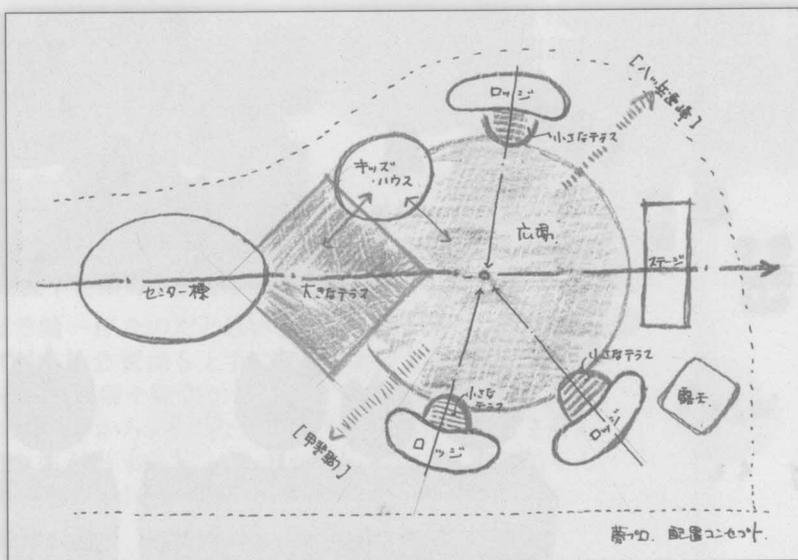
当該計画地は、甲斐駒ヶ岳から北東に釜無川に至るゆるい斜面の松林に位置し、東北に八ヶ岳連峰を眺められるゆるやかな傾斜地の3000坪の土地です。最初に訪れた現地は、うっすらと雪が残る、松と雑木のさびしい林でしたが、半年後には、数本の木だけが残され、他はすべて伐採されて、倒された樹のチップで一面が覆われていました。地下55mの井戸から、白州のおいしい水も湧き、いよいよ建築が始まります。ここに建てられるロッジを中心とした建物は、この地域の農家等に多くみられた伝統的な工法と予算の許す限り自然素材を用い、また、自然エネルギーを最大限利用することを基本としています。

ここは、

- 難病や障害を持つ子どもたち、兄弟、たちが中心の場所であること
- 家族にとって、安心して過ごせる場所であること
- 社会(地域)に開かれた場所であることを最大の目標としています。

子どもたちが自由に駆け回ることのできる直径40mほどの大きな広場を中心に、2棟を1組とし、共通の「小さなテラス」をもった『ロッジ群』と『センター棟』、その前に設けられた『大きなテラス』、そして『キッズハウス』が広場を囲みます。40mの距離は、声が届き、気配の感じられる距離です。この広場では、がんばれ共和国キャンプの人気プログラムの熱気球乗りも実現したいです。たとえロッジから出ることができなくても、小さなテラスを通して、ともにいる時間を共有することのできる空間を目指しています。ロッジ(屋内)→テラス(半戸外)→広場(屋外)とつながる空間は、それぞれの場所で季節を感じ、季節を楽しみ、人の気配を感じる場所となります。センター棟の前の、「大きなテラス」から広場を通してその先のステージとつながり、露天風呂、せせらぎ、ジャブジャブ池、洞窟探検と夢は広がります。

しかし、このコンセプトも今のものであり、白州を夢見る多くの人たちの「思い」と「知恵」と「労力」によって、創りながら、語り合いながら、時間とともにどんどん変化していくものと思います。出来上がりがどんな形になっていくのか、ワクワクしながら見守り、参加していきたいと思えます。





# 日本の技と 日本の木

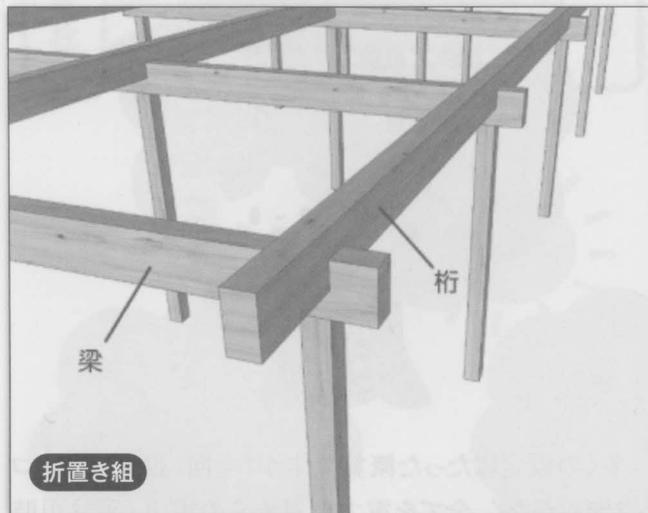
蔵屋工務店 青柳 大樹



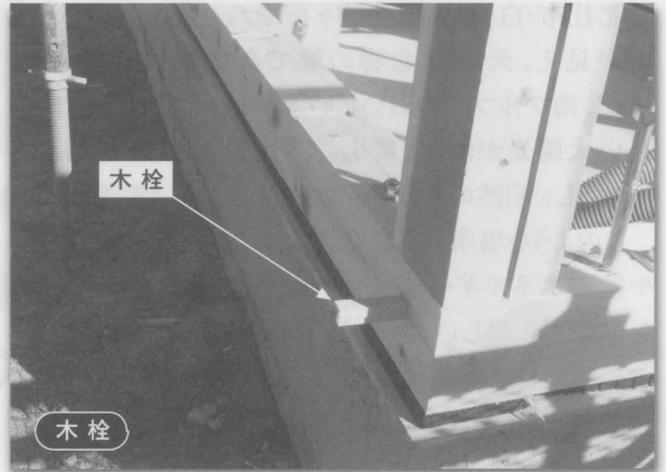
北杜市小淵沢町で細々と工務店を営んでおり、今回みんなの夢を実現するお手伝いをさせて頂きました。蔵屋工務店では昔からの日本の技と日本の木を使い、自然な家を作っています。

当工務店では折置き組という工法で木には1本1本個性やくせなどがあり職人がしっかり木と向き合い適材適所に使用するという施工をされていて、今回取り入れて頂きました。特に昔から一番いい家の作り方は家を建てる土地の近い山から材を切り出し、山の北側の木は家の北側、山の南側の木は家の南側にと、その土地の気候・日当たりになじんでいる木を使うといいと言います。

そこで当工務店では山梨県材・近県材にこだわって使用しています。

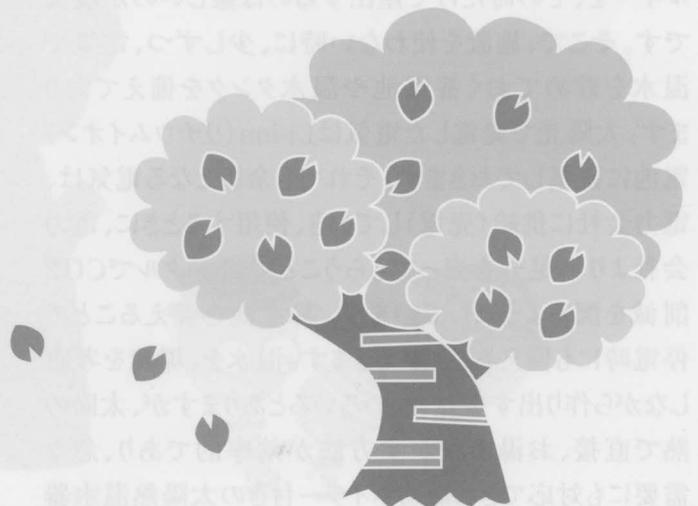


折置き組とは、昔から伝わる和小屋組みの一種で桁と梁が噛み合うように固定される渡りあごという仕口で接続します。簡単に言うと交差する木と木が噛み合うように凹凸を作り組み合わせるということです。渡りあごの下には柱が必ず必要になりますが、上からの荷重がすべて柱に伝達され、渡りあごによってある程度水平剛性と木の柔らかさを生かした施工方法です。柱と梁は、込栓という木栓によって各部材が固定されるため、金物が不要です。



先にも述べましたが、昔から一番いい家の作り方は家を建てる土地の近い山から材を切り出しその土地の気候・日当たりになじんでいる木を使うといいと言います。普段からこの考えに基づき山梨県産材・近県材にこだわってやっています。夢プロジェクトの土地はもともと赤松林で造成時に伐採した赤松を製材し乾燥させたものがありましたので、今回その一部を使わせてもらいこの土地の気候に一番適した材を使用してしっかりとした家ができました。

ぜひ自然の中の自然な家で深呼吸しに来てください。





# 環境を考えて 作りました

畑 秀二



北杜市・白州は、甲斐駒ヶ岳や八ヶ岳の素晴らしい山が見え、天然記念物の蝶であるオオムラサキが飛び、南アルプスのおいしい水が飲めて、日照時間の長い太陽光が燦々と降り注ぐ「山紫水明」を標榜する素晴らしい自然のある場所です。

このような場所にある施設ですので、ここで使う電気や熱のエネルギーも石油や原子力といったものではなく、環境に優しいエネルギーを使いたい、それも、我々の施設で産出した自前のもを使いたいと考えました。

最近では、それを実現できる太陽光や太陽熱を活用するエコロジー技術が進んでいます。しかし、問題なのは、初期設備費用が相当かかることです。ところが幸いなことに、日本テレビの24時間テレビチャリティ委員会からこの資金としての寄付をいただけることになり、この結果、難病のこどもたちと家族が素晴らしい自然の中で自然のエネルギーを使って過ごすという夢も実現できることになりました。

図に示すように白州に燦々と降り注ぐ、太陽のエネルギーを電気と温水に変えて、使うシステムを構築しています。しかし、通常の住宅のように、ほぼ毎日、一定の電気や温水を使うのと大きく条件が異なります。数日間という短期間に集中的に使うという利用パターンにおけるエネルギーを、その時だけで産出するのは難しいのが現実です。そこで、施設を使わない時に、少しずつ、電気や温水を貯めておく蓄電池や温水タンクを備えております。太陽光で発電した電気はLi-ion(リチウムイオン)電池に蓄電しておきます。それでも余剰となる電気は、電力会社に供給(売電)しておき、使用するとき、電力会社より不足分を売ってもらうことで、トータルでCO2削減を図るようにしています。蓄電池を備えることで停電時にも備えることができます。温水を、環境を考慮しながら作り出す方法は、いろいろとありますが、太陽の熱で直接、お湯を沸かす方法が効率的であり、急な需要にも対応できる補助ボイラー付きの太陽熱温水器

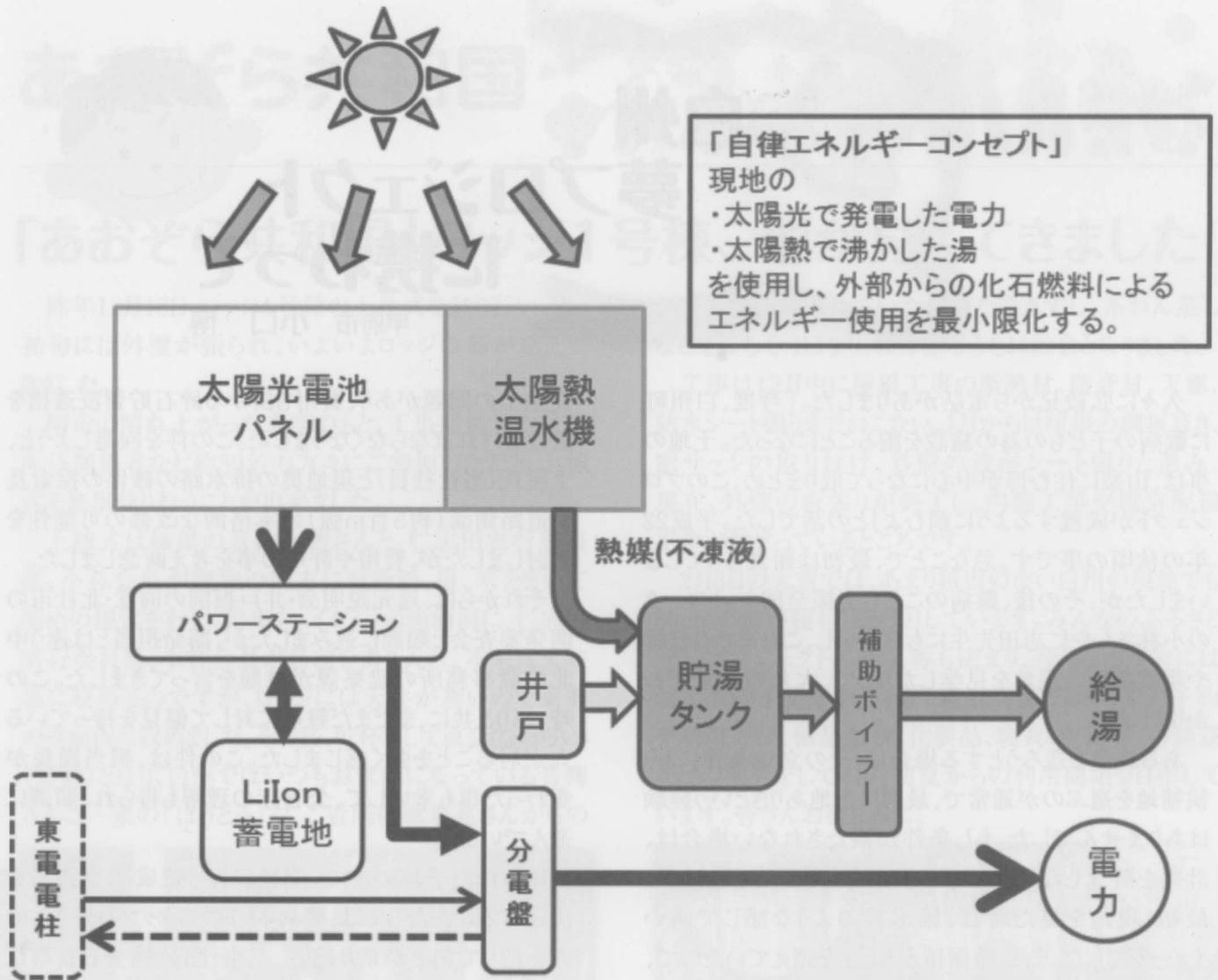
を選びました。しかし、課題は、施設が寒冷地にあり、冬場には凍結の心配があることです。そこで、不凍液を介して熱を吸収する温水器を採用しています。

また、将来的には2号棟、3号棟と建物は増えて行き、最終的には6棟になる予定です。その際は同時に全ての棟でエネルギー使うことは少ないため、各棟のエコシステムを連携し、余ったエネルギーを融通し合うことで、外部からのエネルギー導入を最小化できます。これをHEMS(ホーム・エネルギー・マネージメント・システム)といいますが、そのミニ版を将来的には構築したいと考えています。

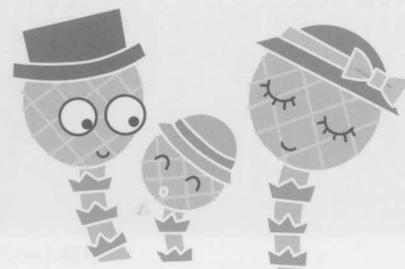


多くの仮定にたった概算ですが、今回、設置するエコシステムがなく、全てを電力会社からの電気(元は現時点では全て石油)と、灯油やガスを用いての給湯を行った場合に比べて、CO2を年に約900kg減らすことができ、地球環境に貢献できます。また、蓄電容量や温水タンク容量に限界があり、全てのエネルギーを自前の自然エネルギーで賄うことは出来ませんが、2/3程度は自前で賄える計算になります。

南アルプスの水を白州の太陽の熱で沸かしたお風呂に入り、白州の太陽の光で出来た電気で調理したご馳走を食べる。という最高の贅沢を味わいましょう。



みんなのふるさと夢プロジェクト エコシステム構成図





# 白州 夢プロジェクト に携わって

甲府市 小口 博

久々に弘毅兄から電話がありました。「今度、白州町に難病の子どもの為の施設を創ることになった。土地の事は、山梨に住む博が中心になって取りまとめ、このプロジェクトが成就するように頼むよ」との話でした。平成22年の秋頃の事です。急なことで、最初は面食らってしまいましたが、その後、難病のこども支援全国ネットワークの小林さんや仁志田先生にもお会いし、これまでの経緯や現状を伺い現地を見学したりして、大凡の様子がわかりました。

ある施設を造ろうとする場合は、その立地条件により候補地を選ぶのが通常で、最初に土地ありきという経験はありませんでした。もし条件が満たされない場合は、計画を断念しなければならない場合もあるからです。最初、現地を見た時は、雑木林のような感じで暗いイメージでした。また、総面積が1万㎡を超えていたので、開発が可能となって施設が無事にできるだろうか…?と心配しました。それでも、難病ネットの集りや家族会のイベントなどに参加するにつけ、自分の中にも白州夢プロジェクトのような施設(正式名称は「あおぞら共和国」に決まりました)が、どうしても必要だとの気持ちが強く湧いてきました。

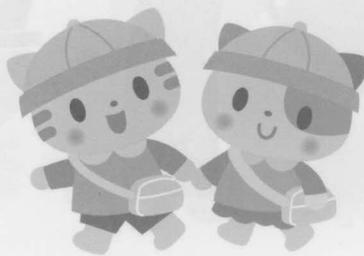
その後は、私が何時も依頼している(有)光研測量に実務を頼み、地元の市長や関係先の公官庁にコンタクトを取り、1万㎡未満の開発とし申請することになりました。開発の難易度を1ランク下げたことで、思ったよりスムーズに進みましたが、排水の事で問題が生じました。個人的には、敷地内に貯留地を設け、既存の道路側溝を改修して排水すれば大丈夫だと考えていましたが、池は

安全上の問題があり、費用も掛かる碎石貯留浸透槽を設けなければならなくなりました。この件を回避しようと、土屋氏(当社社員)と現地奥の排水路の確保の探索及び道路側溝(約500m強)の本格的な改修の可能性を検討しましたが、費用や許可の事を考え断念しました。

それからは、地元説明会・井戸掘削の同意・北杜市の開発審査会と順調に進みましたが、開発担当とは違う中北建設事務所の建築課が難題を言ってきました。この時、怒りと共に、まだまだ難病に対して偏見を持っている人が居ることを強く感じました。この件は、担当課長が変わった事も幸いして、公官庁の理解も得られ、順調に進んでいます。

限られた予算の中で、開発に伴う造成工事業者を決定するにあたっては、難病ネットのスタッフの皆さんの力を借りて何とか乗り越え、工事・開発検査も無事に終えて現状に至っております。

これまで、大規模な開発も何回か手掛けてきました。何時もプレッシャーと不安を伴いながらでしたが、今回は、取り掛かってからは不思議に不可能になるという考えは一度もよぎることなく、また少しも臆することなく立ち向うことができました。これもひとえに、難病ネットの皆さん、また親の会の皆さんの熱い思いが、私を突き動かしてくれたのではないかと感じています。これからも、何かと問題が生ずると思いますが、皆さんと共に乗り越えて「あおぞら共和国」を創っていきたいと思います。



# あおぞら共和国



## 「あおぞら共和国」ロッジ1号棟、形が見えてきました!

昨年12月16日、ロッジ1号棟の上棟式を執り行い、2月初旬には外壁が張られ、いよいよロッジの形が見えてきました。

師走の晴れ上がった青空のもと、工事関係者や難病ネット関係者など約30名の方々にご参加いただき、上棟式を無事執り行うことが出来ました。

上棟式は棟梁の青柳大樹さんと、仁志田実行委員長、小林会長が建物の四方にお神酒、塩、米をまいて清めの儀式を行い、幣束(ヘイグシ)の両側面に、仁志田実行委員長、小林会長が名前を書き入れ、本来は天井裏に収めるのですが、ロッジには天井が無いので東側の壁面内に収めました。その後、乾杯をして直会(なおりい)(宴会)となり、白州ではいつもお世話になっている青柳さんご一家の「ほうとう」や、ご近所の鳳来苑さんからの

ご厚意で差し入れていただいた巻きずし、茶わん蒸しなどをごちそうになり、和やかなうちに散会となりました。

工事は12月中に屋根工事の断熱材、防音材、天窗、防水シート張りまでおこない、1月からは屋根の鋼板葺き、窓サッシの取り付け、外壁の透湿シート張りと進み、現在、外壁の板張りが終了し、内装工事や電気配線工事が始まっているところです。

2月8日の大雪では、あまり積雪のない白州の現地でも50cmの雪が積もりビックリしています。みんなのふるさと“夢”プロジェクトの新名称も決まり、今春の3月末には竣工式の予定です。現在、運用部会ではロッジの予約や利用方法、備品類(電化製品、寝具、食器等)の調達などの検討をしており、初夏からの利用開始を目指しています。皆さんお楽しみに。



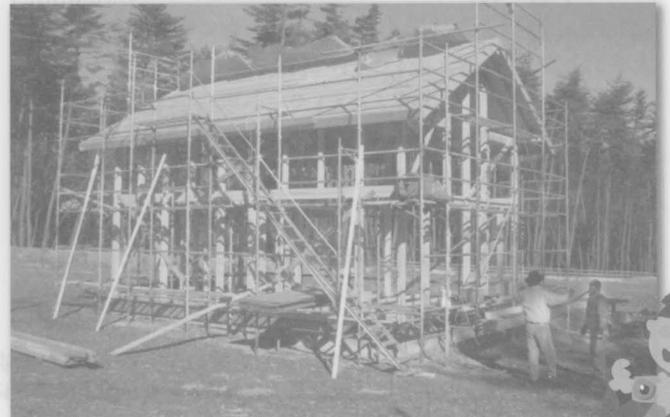
① 上棟式



② 幣束(ヘイグシ)を持つ小林会長と仁志田実行委員長



③ 直会(なおりい)



④ 透湿シート張り

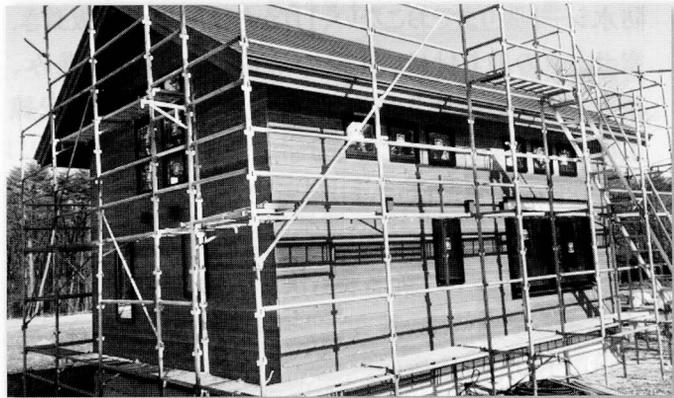




⑤ 屋根葺き、窓サッシ取り付け



⑥ 透湿シート張り



⑦ 外壁張り



⑧ 雪の中のロッジ1号棟